

加入者(国民)を意識した新提言

健康保険組合の新たなチャレンジも

健

保連は9月25日に記者会見を開き、『ポスト2025』健康保険組合の提言を発表した。

1年間かけて「ポスト2025」新提言検討WGを中心に検討を重ね、取りまとめたものである。

団塊の世代が全て後期高齢者となる2025年に向けて、これまで各種制度見直しが行われてきたが、医療費の増加は続き、依然、現役世代の過重な負担という問題は解決していない。今後さらに少子高齢化が進む将来を見据えて、継続的な改革に取り組まなければならない。こうした危機感を社会全体で共有し、これからの取り組みや改革議論を通じて、社会全体のウェルビーイングと現役世代の負担軽減を目指す。

今回の提言の特徴の1つは、加入者(国民)の声を提言の中に生かしたことだ。提言の議論と並行して、加入者(国民)に医療保険制度の現状や課題を理解していただくことに重点を置き、リーフレットや新聞広告等を活用したアンケート調査を実施した。その結果

が提言の支えにもなっている。

もう1つの特徴は、「加入者(国民)の皆さまへの3つのお願い」「健康保険組合の4つの約束」「健康保険組合が取り組む5つのチャレンジ」を前面に押し出したことである。

加入者(国民)には、○医療費のしくみや国民皆保険制度の厳しい状況についてもっと知ってください○自分自身で健康を守る意識をもってください。健診をきちんと受けてください○軽度な身体の不調は自分で手当てするセルフメディケーションを心がけてください——という3つのお願いを提示した。

これに対して、健康保険組合は、○各種健診を受診しやすいよう、こまめに働きかけます○一人ひとりの健康状態に合わせた丁寧な保健指導を実施します○予防・健康づくりに役立つ情報を提供します○職場環境に応じた予防・健康づくりに取り組みます(事業主との連携)——という4つの約束を掲げた。これまで取り組んで

きたことをより確実に実施することで保険者機能を拡充していく。

さらに、社会の変化に対応し、個々の状況等に応じて、健康保険組合が先進的な取り組みにチャレンジしていくことも提言した。それが、○多様な働き方に対応した保健事業の充実強化○かかりつけ医との連携○健康保険組合の発信力強化○データ分析強化による加入者サービスの充実○デジタル化による健康保険組合業務革新——という5項目である。

併せて、国に対しては、○負担の公平性の確保○保険料と公費(税)の負担構造の見直し○保険給付の見直し○医療提供体制の改革○医療DX施策の強化——を柱とする制度改正事項等を提言した。

すでに健保連はこの提言の広報活動を強化している。提言の趣旨を各種事業に取り入れ、10月22日開催予定の全国大会にも反映させる。健康保険組合関係者とはもとより、加入者(国民)の皆さまにもご理解とご支援をお願いしたい。